

前回勉強会での主な意見と対応

○モニタリングについて

[意見]

- ヨシポット苗について、H24 年が渇水傾向であっても、潮の干満によってヨシ原施工区が冠水しているならばポット苗の生長に対する水位の影響は小さかったと考えられる。現地が実際の程度冠水しているかの水位と潮位に関する現場の情報がない。

[対応]

- 平成 25 年度は、ヨシ原施工区近傍に簡易水位計を設置し、施工区の冠水状況を把握する。

実施済み（資料-3 p.12 参照）

[意見]

- 干潟では、現在実施していく地区は自然干潟が下流へ移動しており、またアサリとシジミが生息する境界付近でもあり、評価が難しい地区で実施しているとも言える。今後どのようにモニタリング・評価していくかがポイントになる。

[対応]

- 自然干潟の移動状況について、過去の斜め写真や定期横断測量データ、現地調査により把握する。実施済み（資料-3 p.4-5 参照）
- 平成 25 年度は、縦断方向・地盤高等とアサリ、シジミの生息状況をモニタリングし、その関係について分析・評価する。実施済み（資料-3 p.7-8 参照）

○今後の施工計画について

[意見]

- 干潟の河口部の 2 地区は、現在の施工区とは環境条件が異なり、アサリ等の生息環境として底質環境が悪化している。干潟の施工方法としては、現在実施している地盤高まで盛土をしなくても、覆砂等で底質環境の改善が期待される。

[対応]

- 当面の施工は、現在の地区を実施することを考えている。河口部の 2 地区については別途検討が必要と考えている。今後の検討課題

[意見]

- 今後、ヨシ原面積を増やしていくなかで、再生したヨシ原が維持されていくことが重要であり、地域との連携等のなかでヨシの利用等について考えていく必要がある。

[対応]

- ヨシ原施工区の植生の遷移状況を踏まえ、ヨシ原の管理についても検討していく。

今後の検討課題